

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒140-0002

住 所 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー 27階

氏 名 サンアロマー株式会社

代表取締役社長 山田 一成 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	サンアロマー株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区千鳥町13-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	プラスチック製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	13,320	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t -CO <sub>2</sub>
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2019 年度 ~ 2021 年度 (報告年度 2021 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。  
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。  
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。  
4 ※印の欄は記入しないでください。  
5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

### 事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度 (2018年度)	第1年度 (2019年度)	第2年度 (2020年度)	第3年度 (2021年度)	目標排出量
排出量 (t-CO2)	(実) 25,626 (調) 25,626	(実) 25,214 (調) 25,214	(実) 22,055 (調) 22,055	(実) 24,957 (調) 24,957	(実) 27,366 (調)
削減率		(実) 1.6% (調) 1.6%	(実) 13.9% (調) 13.9%	(実) 2.6% (調) 2.6%	(実) -6.8% (調) %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

原単位等の活動量	生産数量				原単位等の単位	t-CO2/t
	基準年度 (2018年度)	第1年度 (2019年度)	第2年度 (2020年度)	第3年度 (2021年度)	目標とした値	
排出量原単位等の値	0.1957	0.1883	0.1810	0.1716	0.1935	
活動量の値	130900	133900	121800	145400	-	
排出量原単位等の削減率		3.8%	7.5%	12.3%	1.1%	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	工場での生産量が増加し、原油換算のエネルギー使用量は増加したが、排出係数の低下により排出量は1.6%削減。また、原単位も3.8%削減となった。	
第2年度	定期修理実施に伴う運転停止によりエネルギー使用量が減少、加えてCO2排出係数の低下もあり、CO2排出量では13.9%の削減。また運転効率の向上により原単位も7.5%の削減となった。	
第3年度	工場の生産量が増加したためCO2排出量は増加したが、原油換算エネルギー原単位の低下およびCO2排出係数の低下により、CO2排出量の原単位は基準年比12.3%の削減となった。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		運転効率の改善および無効用役の削減により、エネルギー原単位が低下した。また、CO2排出係数の低下もあり、CO2排出原単位は基準年比で12.3%の削減となり目標を達成した。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		設備性能の限界に近付きつつあり、今後の運転効率改善の余地は少ない。しかしながら、多様な視点からの省エネの案件出しを推進し、より一層の排出量削減につなげたい。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>1) エネルギー使用設備の保全、管理、管理標準の見直し                  2) 熱使用設備                  2-1) スチームトラップの検査、補修の実施                  2-2) 保温、保冷の補修、強化の実施                  3) 電動機使用設備更新時の高効率製品の採用                  4) 空調更新時のエネルギー効率改善                  5) 工場照明の一部LED化</p>
<p>第1年度</p>	<p>1) エネルギー使用設備の保全は保全計画に則り、継続実施中                  2-1) スチームトラップの検査、補修を継続して実施                  2-2) 保温、保冷の補修、強化を都度実施                  3) インバーター更新等の事例無し                  4) エアコン1台更新時に、高効率インバーター採用機種を選定した                  5) 照明の一部LED化を実施した</p>
<p>第2年度</p>	<p>1) エネルギー使用設備の保全は保全計画に則り、継続実施中                  2-1) スチームトラップの検査、補修を継続して実施                  2-2) 保温、保冷の補修、強化を都度実施                  3) インバーター更新等の事例無し                  4) エアコン更新等の事例無し                  5) 照明の一部LED化を実施した</p>
<p>第3年度</p>	<p>1) エネルギー使用設備の保全は保全計画に則り、継続実施中                  2-1) スチームトラップの検査、補修を継続して実施                  2-2) 保温、保冷の補修、強化を都度実施                  3) インバーター更新等の事例無し                  4) エアコン更新等の事例無し                  5) 照明の一部LED化を実施した</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>1) 2) 5) については計画通り継続的に実施し、省エネルギーにつながることが出来た。                  3) については事例発生時の実施としていたが、期間中に更新事例が発生しなかった。                  4) については事由発生時に省エネ効率の良い製品を採択した。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	○	千鳥自動倉庫屋上への太陽光発電設置について追加検討を実施し、2025年設置として将来計画に組み込んだ。
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他( )		
その他( )		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他( )	
EV、PHV、FCV	×	その他( )	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 購買事務委託先のグリーン購入制度を通して、貢献を継続</li> <li>・ 廃棄物については、廃棄物の分別化・再利用化を継続する。</li> </ul> <p>製品生産時のエネルギー由来CO2排出量を低減することで、製品ライフサイクルとして、より環境負荷の少ない製品を顧客に提供する。</p>
第1年度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) グリーン購入制度：実施して貢献を継続した。</li> <li>2) 廃棄物：ゼロエミッションの目標設定を行い、廃棄物の分別化・再利用を促進した。</li> <li>3) 製品ライフサイクル中での環境負荷低減：生産数量当たりの排出原単位削減を実現し、顧客に環境負荷の少ない製品を提供できた。</li> <li>4) 通勤時の公共交通機関の利用を推奨し、マイカー通勤によるCO2発生を防いだ。</li> </ol>
第2年度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) グリーン購入制度の対象商品を優先して購入した。</li> <li>2) 廃棄物についてはゼロエミッション(埋め立て処分ゼロ)を達成するとともに、廃棄物の分別化や再利用を促進した。</li> <li>3) 製品ライフサイクル中での環境負荷低減については、生産数量当たりの排出原単位削減を実現し、顧客に環境負荷の少ない製品を提供できた。</li> </ol>
第3年度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) グリーン購入制度の対象商品を優先して購入した。</li> <li>2) 廃棄物についてはゼロエミッション(埋め立て処分ゼロ)を達成するとともに、廃棄物の分別化や再利用を促進した。</li> <li>3) 製品ライフサイクル中での環境負荷低減については、生産数量当たりの排出原単位削減を実現し、顧客に環境負荷の少ない製品を提供できた。</li> </ol>

6 基準年度からのエネルギー起源CO<sub>2</sub>の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO <sub>2</sub> 排出量	25,626 t-CO <sub>2</sub>	25,214 t-CO <sub>2</sub>	22,055 t-CO <sub>2</sub>	24,957 t-CO <sub>2</sub>
原油換算エネルギー 使用量	12,350 KL	12,641 KL	11,390 KL	13,320 KL
事業所の数	2	2	2	2

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
サンアロマー株式会社 製造本部 川崎工場	川崎市川崎区千鳥町13-1	25,043	24,656	21,516	24,435

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO <sub>2</sub> の排出量 (t-CO <sub>2</sub> )			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度